

両周墓葬から見る洛邑

著者	杉田 あずさ
出版者	法政大学史学会
雑誌名	法政史学
巻	57
ページ	22-44
発行年	2002-03-24
URL	http://hdl.handle.net/10114/10731

西周墓葬から見る洛邑

はじめに

洛陽は東周より、後漢・三国魏・西晋・北魏・隋・唐・後梁・後唐の九朝の都となった地である。すぐ北に黄河が流れるが、間にある邙山により、その氾濫の被害は及ばないという地の利があり、また古来交通の要衝として重要な地でもあった。国都に定められるのは東周からではあるが、それ以前、西周初期の成王の治世に、旧殷勢力圏であった東方を経営する拠点として洛邑（現在の洛陽地区）の地に都城が築かれた。⁽¹⁾当時の様子を『尚書』『洛誥』『逸周書』『作雒』などの古文獻が伝えている。また「何尊」と呼ばれる青銅器の内側底部に刻された銘文に成王が東都である成周を造営するに当たり武王に対し祭祀を行っ

たとの記載がある。⁽²⁾その一行目に、
惟王初遷宅成周……

杉田 あずさ

というくだりがある。これは成王が成周建設後、西周の国都鎬京から遷ったと解される。⁽³⁾成周とは洛邑に造られた金文で確認できる都城である。ところで『元河南志』には、
書謂周公・召公卜澗水東瀍水西、惟洛食者、所築乃周王城。即武王謂為天室、定鼎於郊廓所。又卜澗水東、亦洛食者、所築乃成周下都、周處殷民。西城東西相去四十里。

とあり、洛陽地区には二つの都城が営まれたと伝えられている。現在、洛陽地区には周代の遺構として王城と認識されるものが存在する。この遺跡は東周王城と称され、すなわち犬戎に追われ、紀元前七七〇年平王が都を定めたと

『漢書』に伝えられる都城に比定されている。⁽⁴⁾ 前二五六年秦に滅ぼされるまで、基本的に王城は東周の国都として存続していた。⁽⁵⁾

以上のように西周・東周時代の洛陽地区には二つの都城の存在が数々の文献によって確認される。しかしながら、この地区からは上述のように東周時代の王城、所謂東周王城が認められるのみで、西周時代の洛邑、金文に見られる成周に相当する遺構、すなわち都城遺跡を示す城壁や宮殿址は見つかっていない。⁽⁶⁾ したがって、西周・東周時代、洛邑にはどのような人々が居住し、どのような都が営まれていたのかについては十分な理解が得られているとは言い難い。西周初期に殷を滅亡させた直後の洛邑の構成員、そしてまた犬戎に鎬京を追われて遷都したときの洛邑の構成員とは、果たしてどのような人々であったのか。本稿では、人々の思想・習俗が如実に現れ、且つ遺構として多くの資料を提供しているという認識の下に、墓葬という材料を用いてこの問題を論じていくものとする。

一 墓葬の分析

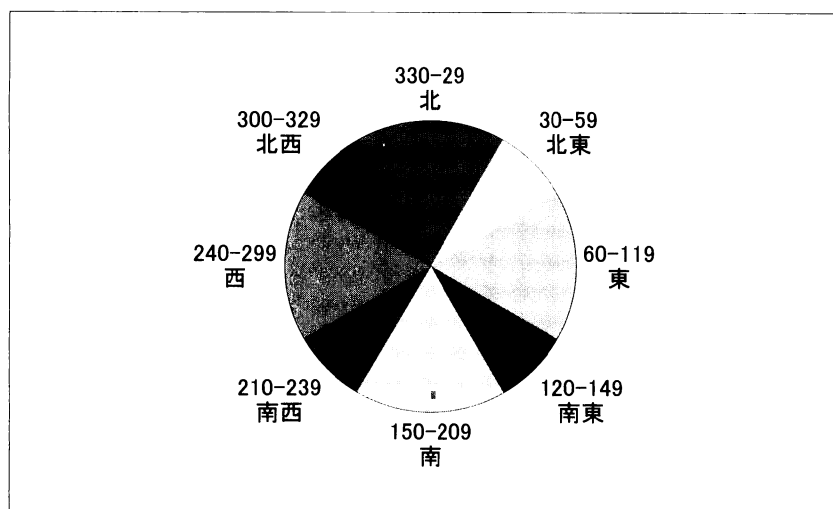
墓葬という文言をめぐる様々な理解がある。本稿での議論は墓葬が当時の人々の思想・習俗を探る材料である

という点を前提としている。そのため、埋葬する意図を持って形成されたものだけを墓葬と考える。すなわち、死者を埋葬する意図が見受けられないもの、例えば地表に放置されたまま自然と埋没したもの、投棄された状況が見受けられるものは本稿の資料として墓葬という範疇から除く。⁽⁷⁾

一方、分析対象区域としては洛陽地区を設定しているが、本稿でいう洛陽地区というのは、洛陽市街地を中心として北の孟津県・東の偃師県に接する地域を指す（以後当該地区ともいう）。なぜこの設定を行っているかといえば、周公・召公が占った場所がこの区域に比定されるからである。⁽⁸⁾

次に墓葬の何を以て人々の思想・習俗が理解できるかという点に触れる。例えば『礼記』『檀弓下』には、葬於北方北首、三代之達礼也。之幽之故也。

というくだりがある。幽暗の方向である北方に頭を北にして埋葬するのが夏・殷・周三代の習わしであることを示している。『礼記』が伝えるのが夏王朝から周王朝の全ての地域に於いて統一された事象とは言えないが、少なくともこのことから埋葬に際しての方向、頭位は当時の思想・習俗の表れと古来より考える。先行研究として松田稔氏も頭



図一 墓葬向き概念図

位と思想・習俗を結びつける積極的な姿勢を見せている。⁽⁹⁾文献の記載と考古学の報告とが必ずしも一致するとは言えず、その点については後述するが、思想・習俗を知る一つの切り口として頭位という問題に筆者は注目した。したがって、本稿では墓葬という検討対象に於いて、特に頭位に基づいた墓の向きから当時の人々の習俗を探り出し、その分析結果を以て洛邑を営んだ人々について議論してみようと思う。また頭位分析と合わせるかたちで、階層という問題にも着目していきたいが、墓の規模を基準にするのが至当な方法であると考ええる。なぜならば洛陽で出土している墓葬は盗掘が著しく随葬品が残されていないものや棺内が荒らされているものが多く、こうした墓葬の随葬品から階層を確認するのは困難であり、随葬品以外で階級が伺えるものは何かと考えるに、それは墓の規模であると思うからである。

では具体的な基準を定めていきたいと思う。まず墓の向きであるが、先行研究として松崎つね子氏による墓主の頭位分析が挙げられる。⁽¹⁰⁾筆者はこの基準に準拠するが、それは先行研究との比較に於いても、同一基準を用いるのが妥当であると思われるからである。その基準を示したものが、図一である。なお報告書によっては墓葬の方向あるい

は方向が明記されていないものもあるが、掲載されている図表中で頭位が確認できるものについては分析対象に加える。一方、判断が付かないものは分析対象から除く。

続いて墓葬の規模の規定を行う。『洛陽北窯西周墓』では墓室の長さ・幅によって大型・中型・小型墓に大別する⁽¹¹⁾。具体的には長さ五メートル以上、幅四メートル以上を大型墓、長さ四メートル前後、幅三メートル前後を中型墓、長さ三メートル以下、幅二メートル以下を小型墓としている。しかし墓葬の中には、長さは基準に達していても幅は基準値を遙かに下回るもの、逆に幅は基準値であっても長さは基準以下であるものが存在し、判断がつかないことがある。また墓型によっては墓口と墓底のサイズが異なる。では何を以て基準と定めるか。墓底には随葬品が置かれ、墓主が横たわり、時として朱砂がまかれていたことがある。このような性質を有するため、墓底には埋葬時の習俗が反映されやすいと考える。したがって本稿では、敢えて墓底の面積を以て墓葬の規模を分類することとした。先に挙げた『洛陽北窯西周墓』の数値を参考に以下の基準を定める。すなわち大型墓は一五平方メートル以上のもの、中型墓は二つに分け、一四・九九平方メートルから一〇・〇〇平方メートルのものを中型墓 a、九・九九平方メートル

両周墓葬から見る洛邑（杉田）

表一 洛陽北窯西周墓・分類表

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	87	108	111	19	325
北東	0	1	0	1	2
東	0	0	0	0	0
南東	0	0	0	0	0
南	0	1	0	0	1
南西	0	0	1	0	1
西	0	1	2	0	3
北西	0	3	5	0	8
計	87	114	119	20	340

表二 北窯西周墓以外の洛陽西周墓

墓 号	方向	向き	面積	規模	時代	掲 載 資 料
C 3 M196号墓	345	北	3.09	小	西周早期	文物 1992年 第3期 19—22, 91
C 3 M200号墓	180	南	3.83	小	西周早期	文物 1992年 第3期 19—22, 91
北窯 M120号墓	353	北	3.94	小	西周前期	考古 1972年 第2期 35—36
C 5 M89号墓	175	南	3.78	小	西周早期	中原文物 1984年 第3期 25—28
C 5 M91号墓	355	北	3.48	小	西周早期	中原文物 1984年 第3期 25—28
IM1505号墓	3	北	5.38	小	西周早期	文物 2000年 第10期 4—11
IM1519号墓	357	北	5.34	小	西周早期	文物 2000年 第10期 4—11
HM362号墓	正北	北	2.25	小	西周中期	文物 1997年 第9期 23—25, 40
HM359号墓	10	北	4.20	小	西周中期	文物 1997年 第9期 23—25, 40
AM21墓	9	北	4.50	小	西周中期	文物 1999年 第9期 16—18, 33
C 5 M88号墓	175	南	3.64	小	西周中期	中原文物 1984年 第3期 25—28
C 5 M90号墓	0	北	3.38	小	西周中期	中原文物 1984年 第3期 25—28
C 5 M92号墓	353	北	5.78	小	西周中期	中原文物 1984年 第3期 25—28
151号墓	359	北	30.83	大	西周後期	考古学報 1955年 第9期 91—116
152号墓	2	北	9.70	中 b	西周後期	考古学報 1955年 第9期 91—116
C 5 M1134号墓	0	北	5.76	小	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1135号墓	353	北	10.00	中 a	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1136号墓	0	北	20.14	大	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1139号墓	0	北	20.00	大	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1144号墓	356	北	6.72	中 b	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1148号墓	353	北	11.48	中 a	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1289号墓	352	北	9.00	中 b	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1290号墓	0	北	9.12	中 b	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M1291号墓	351	北	6.84	中 b	西周晚期	文物 1999年 第9期 19—28
C 5 M906号墓	350	北	12.00	中 a	西周晚期	考古 1995年 第9期 788—791, 801
白馬寺 M 1 号墓	352	北	3.66	小	西周晚期	文物 1998年 第10期 33—37, 66
白馬寺 M 4 号墓	5	北	3.99	小	西周晚期	文物 1998年 第10期 33—37, 66
白馬寺 M21号墓	6	北	5.17	小	西周晚期	文物 1998年 第10期 33—37, 66
C 3 M46号墓	北	北	2.86	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 7 M111号墓	83	東	2.74	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 8 M1025号墓	南	南	5.40	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 3 M 4 号墓	南	南	3.90	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
洛鉄 M 1 号墓	7	北	3.50	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 8 M813号墓	南	南	3.75	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 3 M 3 号墓	南	南	3.07	小	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
C 5 M99号墓	5	北	15.17	大	西周	考古与文物 1998年 第3期 44—68
155号墓	345	北	3.12	小	西周	考古学報 1955年 第9期 91—116
158号墓	18	北	9.83	中 b	西周	考古学報 1955年 第9期 91—116
M14号墓	172	南	15.60	大	西周	文物 1981年 第7期 52—64
東郊西周墓	北	北	4.50	小	西周	考古 1959年 第4期 187—188
6 : 01号墓	183	南	1.99	小	西周	考古通説 1956年 第1期 27—28
3 : 01号墓	354	北	8.49	中 b	西周	考古通説 1956年 第1期 27—28
北窯 M36号墓	北	北	1.20	小	西周	考古 1983年 第5期 430—441, 388
北窯 M69号墓	北	北	1.08	小	西周	考古 1983年 第5期 430—441, 388
北窯 M83号墓	北	北	1.53	小	西周	考古 1983年 第5期 430—441, 388
中州路 M123号墓	5	北	4.92	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M211号墓	359	北	3.64	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M315号墓	358	北	2.10	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M 3 号墓	2	北	2.62	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M403号墓	20	北	2.59	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M404号墓	5	北	1.85	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M506号墓	2	北	3.12	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M640号墓	0	北	4.83	小	西周	『洛陽中州路』
中州路 M816号墓	5	北	5.04	小	西周	『洛陽中州路』

*時代については掲載論文に報告されているものに基づく。従って明確でないものは分かる範囲で示している。すなわち西周とだけ分かるものは「西周」と示す。

表三 洛陽西周墓・分類表

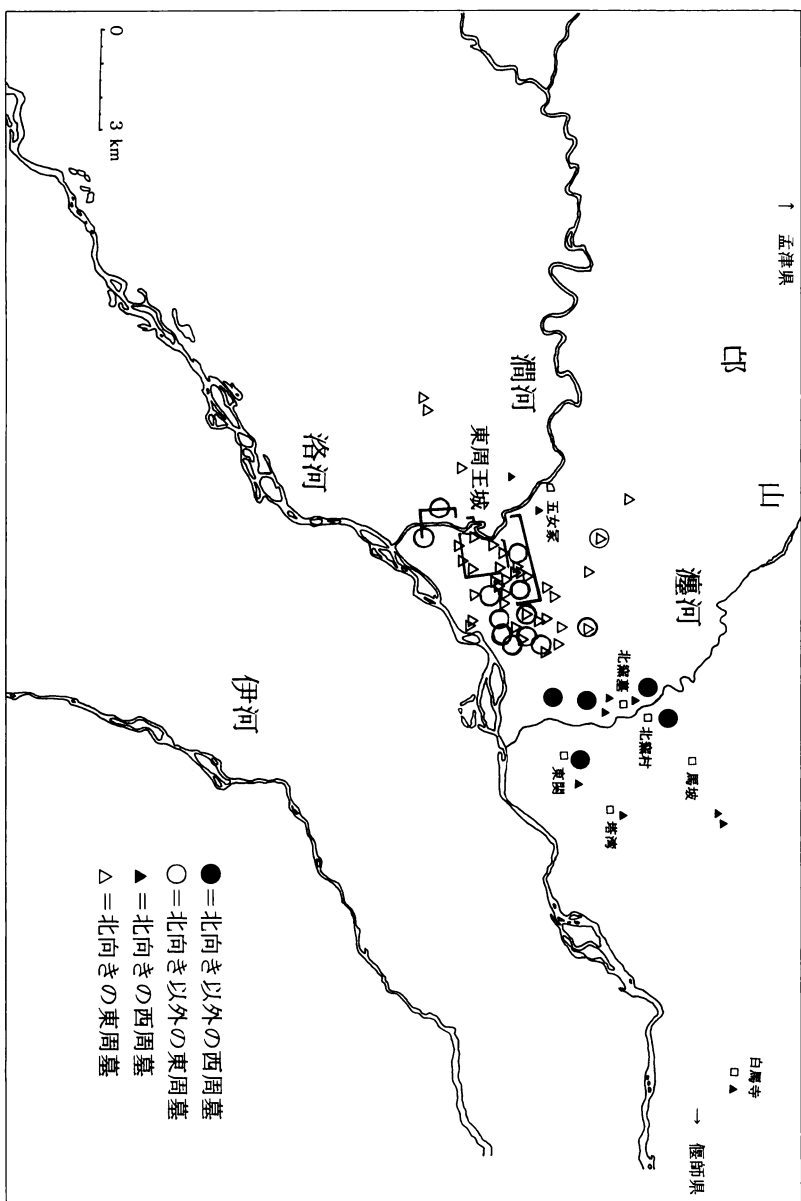
	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	91	111	118	49	369
北東	0	1	0	1	2
東	0	0	0	1	1
南東	0	0	0	0	0
南	1	1	0	8	10
南西	0	0	1	0	1
西	0	1	2	0	3
北西	0	3	5	0	8
計	92	117	126	59	394

ルから六・〇〇平方メートルのものを中型墓¹²⁾、小型墓は五・九九平方メートル以下のものとする。中型墓を二つに分けたのは六・〇〇平方メートル以上一五平方メートル未満の範囲内を約五平方メートル毎にし、大型墓と小型墓に分類される面積の対象数値を中型墓の二分した対象数値とほぼ同じ範囲にするためである。

以下、頭位及び墓葬の規模を上述の規準によって分析し、洛陽地区の墓葬の様相を見ていくことにする。

二 洛陽地区の西周墓

先に示した分析基準を以てまず『洛陽北窯西周墓』中の墓葬を分類したのが表一である。⁽¹²⁾これによると、ほとんどの墓葬が北を向いていることが明らかである。中でも大型墓は西周時代を通じて全て北向きである。その他、中型墓 a 中の北向きの割合は約九五パーセント、中型墓 b は九三パーセント、小型墓は九五パーセントといずれも九〇パーセント以上が北向きであり、全体的にも九六パーセントという高い割合を北向き墓が占めている。このことは規模の違いによって特質が異なるわけではなく、この地区の墓葬全てが北向きの傾向にあることを示している。すなわち、大型墓の墓主たりうる身分の者も小型墓の墓主たりうる身



図二 洛陽地区の西周・東周墓 (『中国文物地図集 河南分冊』をもとに作成)

分の者も一様の思想あるいは習俗に基づいて埋葬されたと言えよう。

同様の方法で『洛陽中州路』中で報告されている西周期の墓葬¹³、及びその他個別に報告されている洛陽地区の西周墓を見る。分析対象としたのは表二に示した五四基の西周墓である。小型墓が全体の半数以上を数えるが、全体に認められる傾向は同じく北向き墓が多い。ただ報告では北以外を向く墓葬も少なからず認められる。五四基中一〇基、約二〇パーセント弱が北以外を向く。これらを本稿の採用した基準によって分類し、先の北窯墓と合算すると、表三のようになる。九四パーセントが北向きで、それ以外は六パーセントとなる。

従来、当該地区の西周墓をめぐっては数多の研究結果が出されているが、それらを通じて、西周墓は灋河兩岸の塔湾・馬坡・龐家溝・老城東関・北窯の一带と中州路を含む灋河兩岸に集中して発見されていることが知られる。¹⁴大きく分けてこの二つの区域が当時の墓群と理解できる。¹⁵灋河・灋河は図二に見えるように洛陽市街地を縦断する二つの河川である。このうち、灋河兩岸出土の西周墓は全て北を向いている。¹⁷一方、北以外を向く墓が若干認められる北窯墓及び個別に報告される洛陽墓に於いて北以外を向く一

〇基中、出土場所が報告されている五基はいずれも灋河兩岸に位置する。その中でもM一四号墓は注目に値する。なぜならば、北墓道が八メートルのところで東に折れているが、全長一八メートルの墓道を有する中字型の大墓で、盗掘が甚だしいながらも有力者の墓であることが伺われる様相を呈している南向き墓だからである。M一四号墓周辺には中・小規模の墓が複数見つかっており、¹⁸M一四号墓と平行するように皆南に頭を向けていることが分かっている。また、この付近からは同時期に形成されたと思われる祭祀坑が三カ所で見つかっており、墓の規模から階級差も明白で一つの集団としてのまとまりがあったのではないかと思われる。つまり例外的に北以外を向く西周墓は灋河兩岸地区で出土しており、この一带には北向きに墓を作るグループと北以外の、主に南向きに墓を作るグループとが混在していたと考えられる。

以上、洛陽地区の西周墓を頭位と規模を基準に分析した。その結果西周時代の洛陽では墓室の規模に関係なく北向きに作る傾向が強いことが分かる。すなわち、北向きに墓を作る習俗は、ある一定の階層に止まるものではなく、大型墓の墓主たる階層にも小型墓の墓主たる階層にも同様に浸透していたと言える。ただ全てが北向きに作られてい

表四 洛陽中州路春秋墓・分類表

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	1	2	8	50	61
東	0	0	0	3	3
南	0	0	0	7	7
西	0	0	0	2	2
計	1	2	8	62	73

*北東・南東・北西・南西は各項目「0」であるため省略した。

表五 洛陽中州路戦国墓・分類表

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	1	2	8	51	62
東	0	0	2	7	9
南	0	0	0	4	4
西	0	0	0	0	0
計	1	2	10	62	75

*北東・南東・北西・南西は各項目「0」であるため省略した。

表六 洛陽中州路未分期東周墓・分類表

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	0	0	7	74	81
東	0	0	0	5	5
南	0	0	0	4	4
西	0	0	0	0	0
計	0	0	7	83	90

*北東・南東・北西・南西は各項目「0」であるため省略した。

表七 洛陽中州路東周墓以外の東周墓

両周墓葬から見る洛邑（杉田）

墓 号	方向	向き	面積	規模	時代	掲載資料	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M485号墓	356	北	15.12	大型	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
西郊1号墓	0	北	56.88	大型	戦国	考古	1959年	第12期	653—657
74C1 M4号墓	0	北	47.36	大型	戦国	考古	1980年	第6期	488—492
212号墓	350	北	32.76	大型	戦国中期	文物	1985年	第12期	21—22
C1 M3750号墓	0	北	16.53	大型	戦国中期	文物	1995年	第8期	7—18
西郊4号墓	6	北	67.24	大型	戦国中期	文物資料叢刊	1985年	第9輯	151—162
凱旋路 M433号墓	0	北	10.97	中型a	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
LBM4号墓	4	北	10.76	中型a	春秋中晩期	考古	1985年	第6期	508—521
C1 M6112号墓	0	北	10.14	中型a	春秋中晩期	文物	1999年	第8期	14—18
凱旋路 M450号墓	5	北	10.73	中型a	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
C1 M2547号墓	0	北	10.11	中型a	戦国早期	考古	1991年	第6期	511—521
C1 M3352号墓	356	北	10.44	中型a	戦国早期	文物	1992年	第3期	23—26
M131号墓	5	北	14.28	中型a	戦国中期	文物	1994年	第7期	4—15.43
燒溝 M612号墓	5	北	14.00	中型a	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127—162
凱旋路 M446号墓	0	北	6.08	中型b	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M458号墓	5	北	6.89	中型b	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M463号墓	0	北	7.68	中型b	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M484号墓	0	北	8.40	中型b	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M488号墓	11	北	8.06	中型b	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
IM705号墓	5—350	北	6.88	中型b	春秋中期	中原文物	1998年	第3期	1—4
M60号墓	7	北	8.88	中型b	春秋晩期	考古	1981年	第1期	24—26.47
M439号墓	350	北	6.11	中型b	春秋晩期	文物	1981年	第7期	65—67
市委 M18号墓	352	北	7.07	中型b	春秋晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市委 M60号墓	351	北	7.80	中型b	春秋晩期	考古	1989年	第9期	789—798
C1 M3729号墓	5	北	8.58	中型b	春秋晩期	考古	1991年	第6期	511—521
凱旋路 M466号墓	10	北	6.83	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M467号墓	358	北	9.54	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M470号墓	355	北	8.64	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M471号墓	345	北	6.08	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M476号墓	4	北	6.56	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M478号墓	0	北	6.93	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M479号墓	356	北	6.93	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M480号墓	355	北	8.14	中型b	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
燒溝 M613号墓	355	北	6.30	中型b	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127—162
燒溝 M626号墓	0	北	6.24	中型b	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127—162
凱旋路 M431号墓	0	北	7.55	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M436号墓	352	北	7.94	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M437号墓	5	北	6.20	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M445号墓	0	北	6.14	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M451号墓	5	北	6.60	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M453号墓	0	北	7.52	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M464号墓	10	北	6.20	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M468号墓	358	北	6.41	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M472号墓	359	北	8.32	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M477号墓	0	北	6.20	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M483号墓	4	北	6.72	中型b	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M441号墓	358	北	8.40	中型b	戦国晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
70—17M2号墓	4	北	7.65	中型b	戦国早期	考古	1985年	第6期	508—521
製冷機械廠 M29号墓	0	北	6.30	中型b	戦国早期	考古	1987年	第8期	711—722
玻璃廠内 M68号墓	357	北	6.16	中型b	戦国早期	考古	1989年	第9期	789—798
市委 M59号墓	0	北	6.81	中型b	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M74号墓	0	北	7.04	中型b	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
C1 M3732号墓	北	北	8.82	中型b	戦国中期	文物	1995年	第8期	7—18
C1 M4028号墓	0	北	6.56	中型b	戦国中期	文物	1995年	第8期	4—6
定鼎路小学大型墓1	北	北	7.42	中型b	戦国中晩期	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学大型墓2	北	北	7.42	中型b	戦国中晩期	考古	1997年	第11期	36—43
IM540号墓	335	北	6.20	中型b	戦国晩期	文物	1994年	第7期	16—21

C 1 M3943号墓	352	北	6.51	中型 b	戰国晚期	文物	1999年	第 8 期	4—13
T 3 M 2 号墓	358	北	2.76	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
市委 M58号墓	0	北	3.50	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
市建公司 M34号墓	0	北	2.42	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
市西花壇 M31号墓	355	北	5.83	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
防疫駅 T 1 M 1 号墓	0	北	1.28	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M28号墓	359	北	2.76	小型	周	考古	1989年	第 9 期	789—798
70-17M 4 号墓	6	北	4.16	小型	東周	考古	1985年	第 6 期	508—521
70-17M 5 号墓	0	北	1.24	小型	東周	考古	1985年	第 6 期	508—521
70-17M 8 号墓	0	北	2.85	小型	東周	考古	1985年	第 6 期	508—521
T16-M 3 号墓	0	北	2.86	小型	東周	考古	1985年	第 6 期	508—521
市委 M61号墓	0	北	3.60	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
市人防辦公室 M87号墓	342	北	5.25	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
老城環衛駅 M83号墓	338	北	4.88	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M65号墓	357	北	2.06	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M67号墓	356	北	3.36	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M71号墓	352	北	5.55	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M76号墓	357	北	2.99	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M77号墓	351	北	1.68	小型	東周	考古	1989年	第 9 期	789—798
95LM379号墓	北	北	4.03	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学小型墓 1	北	北	1.58	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学小型墓 2	北	北	1.58	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学小型墓 3	北	北	1.58	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学小型墓 4	北	北	1.58	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学中型墓 2	北	北	4.03	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
定鼎路小学中型墓 3	北	北	4.03	小型	東周	考古	1997年	第11期	36—43
凱旋路 M428号墓	358	北	3.60	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M439号墓	357	北	1.40	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M449号墓	5	北	3.36	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M455号墓	355	北	2.80	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M456号墓	350	北	2.60	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M469号墓	356	北	4.65	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M473号墓	2	北	3.71	小型	東周	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
澗西75号墓	北	北	2.26	小型	春秋	考古通訊	1957年	第 3 期	47—55
凱旋路 M435号墓	355	北	2.86	小型	春秋早中期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M443号墓	4	北	4.16	小型	春秋早中期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M422号墓	357	北	5.22	小型	春秋早中期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M426号墓	2	北	3.92	小型	春秋早中期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M429号墓	0	北	4.05	小型	春秋早中期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
市委 M 1 号墓	355	北	3.11	小型	春秋中期	考古	1989年	第 9 期	789—798
IM654号墓	5~350	北	5.04	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM655号墓	5~350	北	5.04	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM661号墓	5~350	北	3.80	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM662号墓	5~350	北	5.04	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM663号墓	5~350	北	3.80	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM664号墓	5~350	北	5.04	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM665号墓	5~350	北	3.80	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
IM704号墓	5~350	北	3.80	小型	春秋中期	中原文物	1998年	第 3 期	1—4
33工区 M3110号墓	3	北	5.76	小型	春秋晚期	考古	1987年	第 8 期	711—722
市建公司 M33号墓	4	北	5.58	小型	春秋晚期	考古	1989年	第 9 期	789—798
市建公司 M35号墓	5	北	4.40	小型	春秋晚期	考古	1989年	第 9 期	789—798
地区廣播電視局M62号墓	355	北	4.32	小型	春秋晚期	考古	1989年	第 9 期	789—798
玻璃廠内 M29号墓	358	北	3.78	小型	春秋晚期	考古	1989年	第 9 期	789—798
C 1 M2430号墓	355	北	4.31	小型	春秋晚期	考古	1991年	第 6 期	511—521
凱旋路 M442号墓	346	北	2.94	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M444号墓	358	北	4.78	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M460号墓	357	北	3.43	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M462号墓	2	北	5.22	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M474号墓	350	北	4.32	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394
凱旋路 M475号墓	355	北	2.34	小型	春秋晚期	考古學報	2000年	第 3 期	359—394

凱旋路 M481号墓	2	北	5.22	小型	春秋晚期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M430号墓	356	北	3.22	小型	春秋晚期	考古学報	2000年	第3期	359—394
東郊 M51号墓	8	北	1.92	小型	戦国	考古学報	1955年	第1期	91—116
東郊 M58号墓	5	北	1.06	小型	戦国	考古学報	1955年	第1期	91—116
漢河南県城 WSM 3号墓	4	北	2.48	小型	戦国	考古学報	1956年	第2期	1—32
漢河南県城 WSM 7号墓	2	北	4.28	小型	戦国	考古学報	1956年	第2期	1—32
C 1 M2517号墓	2	北	1.19	小型	戦国	文物	1992年	第3期	92—93
C 1 M2528号墓	356	北	3.90	小型	戦国初期	考古	1989年	第5期	414—417
70—11M34号墓	352	北	5.04	小型	戦国早期	考古	1985年	第6期	508—521
市建公司 M32号墓	8	北	3.06	小型	戦国早期	考古	1989年	第9期	789—798
市長征布鞋廠 M52号墓	360	北	3.62	小型	戦国早期	考古	1989年	第9期	789—798
市長征布鞋廠 M54号墓	356	北	3.30	小型	戦国早期	考古	1989年	第9期	789—798
市貿易信託公司 M30号墓	3.5	北	3.06	小型	戦国早期	考古	1989年	第9期	789—798
C 1 M2549号墓	0	北	5.22	小型	戦国早期	考古	1991年	第6期	511—521
漢河南県城 WSM 2号墓	0	北	3.82	小型	戦国早期	考古学報	1956年	第2期	1—32
CM1951号墓	北	北	1.47	小型	戦国早期	文物	1995年	第11期	79
凱旋路 M423号墓	357	北	4.06	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M425号墓	0	北	4.68	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M434号墓	346	北	4.35	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M448号墓	2	北	5.80	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M452号墓	357	北	4.76	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M454号墓	345	北	4.80	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M461号墓	5	北	4.25	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M465号墓	0	北	5.60	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M482号墓	356	北	5.70	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M487号墓	358	北	2.20	小型	戦国早中期	考古学報	2000年	第3期	359—394
71—13M 1号墓	348	北	4.87	小型	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
T21M 2号墓	353	北	4.32	小型	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
M212号墓	350	北	3.90	小型	戦国中期	文物	1985年	第12期	21—22
111工区 M026号墓	350	北	2.79	小型	戦国中期	考古	1987年	第8期	711—722
34工区 M11号墓	0	北	3.19	小型	戦国中期	考古	1987年	第8期	711—722
C 1 M389号墓	20	北	3.29	小型	戦国中期	考古	1987年	第8期	711—722
市委 M57号墓	0	北	2.66	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
老城環衛駅 M81号墓	352	北	4.58	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
老城環衛駅 M84号墓	335	北	2.94	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
老城環衛駅 M85号墓	352	北	5.76	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M66号墓	350	北	2.71	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M69号墓	355.5	北	2.55	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M72号墓	356	北	5.29	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M78号墓	351	北	3.88	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
C 4 M100号墓	北	北	1.96	小型	戦国中期	考古	1991年	第6期	511—521
C 4 M327号墓	352	北	4.00	小型	戦国中期	考古	1991年	第6期	511—521
IM1009号墓	0	北	3.90	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1012号墓	5	北	3.25	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1061B号墓	0	北	1.67	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1072号墓	4	北	1.94	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1075号墓	5	北	3.13	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1080号墓	7	北	3.71	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1082号墓	7	北	3.70	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1130号墓	345	北	1.68	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1158号墓	0	北	1.26	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM799号墓	0	北	1.60	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM885号墓	5	北	4.87	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM890号墓	2	北	3.50	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM894号墓	0	北	3.74	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM896号墓	355	北	3.44	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM991号墓	5	北	1.94	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM996号墓	5	北	3.51	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM999号墓	360	北	2.02	小型	戦国中期	中原文物	1999年	第1期	4—30
燒溝 M420号墓	4	北	2.88	小型	戦国中晚期	考古学報	1954年	第1期	127—162

烧溝 M44号墓	0	北	5.10	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M601号墓	5	北	2.93	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M602号墓	0	北	4.56	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M603号墓	9	北	2.51	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M604号墓	354	北	5.89	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M605号墓	0	北	3.53	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M606号墓	0	北	3.43	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M607号墓	353	北	3.36	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M608号墓	1	北	3.44	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M609号墓	6	北	5.04	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M610号墓	354	北	4.29	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M611号墓	0	北	4.64	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M614号墓	357	北	4.30	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M615号墓	352	北	3.58	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M616号墓	0	北	2.70	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M617号墓	354	北	3.63	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M618号墓	346	北	2.51	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M619号墓	0	北	4.32	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M620号墓	12	北	3.29	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M621号墓	357	北	2.69	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M622号墓	350	北	2.81	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M623号墓	0	北	2.69	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M624号墓	2	北	4.56	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M625号墓	5	北	4.99	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M626号墓	350	北	4.06	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M629号墓	358	北	3.29	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M630号墓	1	北	3.74	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M631号墓	0	北	3.12	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M633号墓	356	北	2.94	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M634号墓	0	北	4.60	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M635号墓	350	北	2.99	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M636号墓	354	北	4.68	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M637号墓	1	北	4.68	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M639号墓	5	北	3.95	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M640号墓	355	北	4.37	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M641号墓	356	北	4.93	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M642号墓	357	北	5.55	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M643号墓	358	北	2.95	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M644号墓	354	北	2.64	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M645号墓	0	北	4.79	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M646号墓	355	北	4.43	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M647号墓	357	北	4.66	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M648号墓	0	北	4.90	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M649号墓	350	北	2.72	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M651号墓	355	北	5.40	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M652号墓	355	北	3.97	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M653号墓	4	北	3.12	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M654号墓	0	北	2.93	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M655号墓	1	北	2.70	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M656号墓	0	北	3.83	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M657号墓	357	北	4.08	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
烧溝 M658号墓	2	北	4.40	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127-162
IM1083号墓	7	北	3.98	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM1064号墓	10	北	1.78	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM1068号墓	5	北	2.00	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM1084号墓	5	北	1.88	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM1142号墓	4	北	2.49	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM1144号墓	0	北	2.30	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM938号墓	358	北	3.83	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30
IM995号墓	4	北	1.58	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4-30

漢河南泉城WNM2号墓	17	北	3.75	小型	戦国晩期	考古学報	1956年	第2期	1—32
洞西12号墓		北	3.97	小型	戦国晩期	考古通説	1957年	第3期	66—68
洞西13号墓	2	北	4.46	小型	戦国晩期	考古通説	1957年	第3期	66—68
70-11M5号墓	355	北	2.94	小型	戦国晩期	考古	1985年	第6期	508—521
111工区 M014号墓	350	北	3.40	小型	戦国晩期	考古	1987年	第8期	711—722
37工区 M1号墓	7	北	2.67	小型	戦国晩期	考古	1987年	第8期	711—722
市委 M21号墓	355	北	3.52	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市委 M22号墓	350	北	3.36	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市委 T4 M1号墓	0	北	1.61	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市長征布鞋廠 M53号墓	356	北	3.65	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市房地産公司T124M1号墓	360	北	1.98	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
总工会 T1 M1号墓	355	北	3.41	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M70号墓	354	北	5.55	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M75号墓	356	北	3.88	小型	戦国晩期	考古	1989年	第9期	789—798
C4 M88号墓		北	2.02	小型	戦国晩期	考古	1991年	第6期	511—521
凱旋路 M424号墓	0	北	4.20	小型	戦国晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M438号墓	355	北	2.98	小型	戦国晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M447号墓	7	北	2.99	小型	戦国晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M459号墓	356	北	2.99	小型	戦国晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
凱旋路 M457号墓	36	北東	2.46	小型	東周	考古学報	2000年	第3期	359—394
70-11M31号墓	95	東	10.05	中型 a	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
HM293号墓	90	東	6.00	中型 b	戦国	文物	1996年	第7期	39—41
70-11M33B号墓	91	東	3.80	小型	東周	考古	1985年	第6期	508—521
70-11M4号墓	87	東	3.14	小型	東周	考古	1985年	第6期	508—521
70-11M28A号墓	90	東	3.92	小型	春秋晩期	考古	1985年	第6期	508—521
市実験小学 M55号墓	88	東	3.15	小型	春秋晩期	考古	1989年	第9期	789—798
市実験小学 M56号墓	94	東	3.51	小型	春秋晩期	考古	1989年	第9期	789—798
漢河南泉城WWM1号墓	89	東	2.31	小型	戦国	考古学報	1956年	第2期	1—32
東周王城南城墻M1号墓	90	東	0.58	小型	戦国	考古学報	1959年	第2期	15—36
70-11M28B号墓	90	東	3.48	小型	戦国早期	考古	1985年	第6期	508—521
70-11M29号墓	90	東	3.36	小型	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
70-11M33A号墓	86	東	4.56	小型	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
70-11M3号墓	88	東	2.76	小型	戦国中期	考古	1985年	第6期	508—521
市四十三中学 M23号墓	93	東	4.45	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
姚溝 M650号墓	80	東	1.80	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127—162
IM1089号墓	90	東	1.70	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
市委 M19号墓	264	西	5.55	小型	春秋晩期	考古	1989年	第9期	789—798
玻璃廠内 M27号墓	275	西	4.03	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
C1 M203号墓	265	西	9.00	中型 b	戦国早期	中原文物	1984年	第3期	29—33
市委 M20号墓	262	西	7.31	中型 b	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
5239号墓	175	南	29.67	大型	春秋晩期	考古与文物	2000年	第4期	3—8
市西花壇 M25号墓	181	南	3.51	小型	周	考古	1989年	第9期	789—798
凱旋路 M440号墓	175	南	2.86	小型	春秋晩期	考古学報	2000年	第3期	359—394
玻璃廠内 M26号墓	182	南	5.18	小型	戦国中期	考古	1989年	第9期	789—798
姚溝 M659号墓	170	南	5.18	小型	戦国中晩期	考古学報	1954年	第1期	127—162
IM1128号墓	180	南	1.84	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1135号墓	185	南	1.76	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1138号墓	182	南	1.68	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1148号墓	165	南	2.07	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1192号墓	185	南	1.61	小型	戦国中晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1152号墓	185	南	2.31	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM1193号墓	175	南	1.84	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30
IM897号墓	190	南	2.40	小型	戦国晩期	中原文物	1999年	第1期	4—30

*時代については掲載論文に報告されているものに基づく。従って明確でないものは分ける範囲で示している。すなわち春秋時代とだけ分かるものは「春秋」、戦国時代とだけ分かるものは「戦国」、各時代の中期から晩期というものの、どちらか不明であるものは「中晩期」とし、春秋・戦国時代どちらかであるのは東周、東周時代とも西周時代とも判別できないものは周と示す。

*掲載論文は雑誌名・号数・ページ数を示すものである。

表八 洛陽東周墓・分類表

1. 洛陽春秋墓

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	0	3	14	79	96
東	0	0	0	6	6
南	1	0	0	8	9
西	0	0	0	3	3
計	1	3	14	96	114

2. 洛陽戦国墓

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	6	6	32	188	232
東	0	0	3	16	19
南	0	0	0	14	14
西	0	0	2	1	3
計	6	6	37	219	268

3. 洛陽東周末分期墓

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	1	1	12	100	114
北東	0	0	0	1	1
東	0	0	0	7	7
南	0	0	0	4	4
西	0	0	0	0	0
計	1	1	12	112	126

4. 洛陽周墓

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	0	0	0	6	6
東	0	0	0	0	0
南	0	0	0	1	1
西	0	0	0	0	0
計	0	0	0	7	7

* 春秋・戦国墓中、北東・南東・北西・南西は各項目「0」であるため省略した。

* 東周末分期墓中、南東・北西・南西は各項目「0」であるため省略した。

るわけではなく、例外的に違う方向に向く墓も認められる。その例外は、管見の限り瀋河兩岸の地域に集中しており、この地域には大別して北向き墓のグループとそれ以外を向く、例えば南向き墓のグループとが共存していたといえる。

三 洛陽地区の東周墓

紀元前七七〇年周王朝は都を洛邑に遷す。東周時代である。都を遷すのに伴い、当然今まで西周の都鎬京に居住していた人々が洛邑の構成員として加わる。この事により東周時代の墓葬の中に鎬京から新たに持ち込まれた要素が反映される可能性がある。果たして洛陽地区の東周墓は西周墓とどのような相違があるのだろうか。まず西周時代の墓葬分析と同様の方法によって東周時代の洛陽墓を見ていこうと思う。

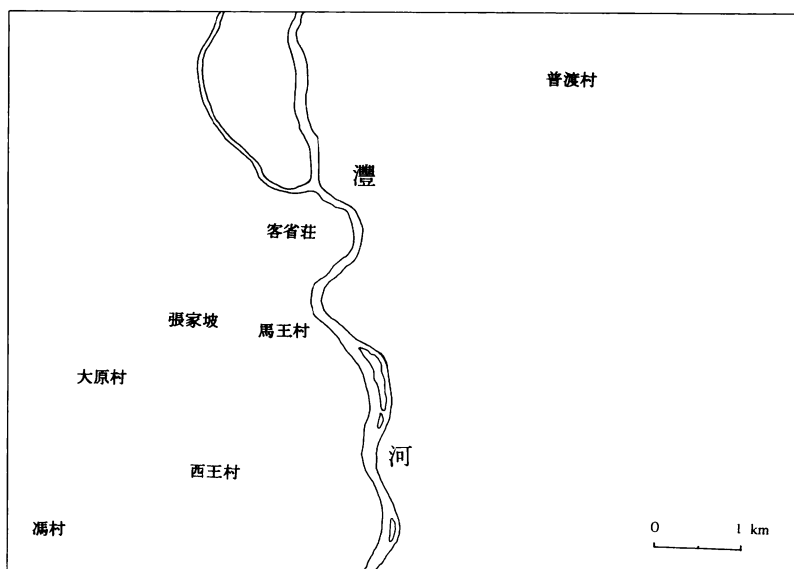
東周時代の洛陽墓は西周時代のそれに比べ多数発掘されている。その中心となるのが洛陽中州路で発掘されたものである。ここで見つかった東周墓は随葬品から中州路第一期から第七期までに時代区分が定められているが、それは洛陽に限らずその他の地域の東周墓を年代比定する際の基準となっている⁽¹⁹⁾。筆者は編年作業の再構築を現段階では意

図するものではないので、この編年基準に従い、東周時代の洛陽墓を時代毎に大きく春秋墓と戦国墓に分け、それぞれの時代の墓葬を分析したいと思う。

まず中州路出土の東周墓の分析をする。春秋墓については表四、戦国墓については表五、中州路墓中、春秋時代・戦国時代どちらに分期すべきか分からないものは表六の未分期東周墓に分類している。いずれも西周墓と同様に北向きの墓が最も多く、全体の八〇パーセント以上を占める。

中州路以外に、個別に報告される洛陽地区出土の東周墓も多数存在する。それらの中から上掲の基準によって分析したのが表七に示すものである。また表七のデータと中州路出土東周墓とを合算し、まとめたものが表八である。春秋墓・戦国墓・東周末分期墓及びその他周墓それぞれに分けて示している⁽²⁰⁾。これらもまた中州路の東周墓と同様に北向きが八〇パーセント以上を占めている。

一方、北向き以外の墓に目を転ずると、ほとんどが中州路を中心とする現洛陽市街地に集中する。すなわち東周王城がある付近には、北向き以外に、西向き・東向き・南向きの墓が存在する。西周時代は瀋河兩岸の地域に北向き以外の墓が認められるのに対し、東周時代は澗河が流れる東周王城周辺に北向き以外の墓が見られるのである。



図三 澧河を中心とする澧西地区（『澧西発掘報告』をもとに作成）

西周のM一四号墓とその周辺に比べると、小規模にはなるが、北向き以外の集団で且つ階級差が見られるような状況が東周王城周辺の見受けられる。M一四号墓を中心とする集団が洛陽地域以外の集団だとするならば、この東周王城周辺の状況も同様に解釈することができよう。その一つの可能性として、筆者は東遷にともなって、洛陽地域に移り住んだ人々を想定している。東周王城というのは東周時代、周王が居した都城と言われている。西周の都鎬京から遷ってきた人々もこの周辺に居を構え、生活し、墓を作ったという想定も十分可能である。

表八で示したように、東周時代の洛陽墓は全体としては西周時代と変わらぬ様相を呈している。だが、北向き以外の墓の分布を見ると、明らかにその範囲は異なり、北向き以外の墓を作るグループは西周時代の澧河流域から東周王城付近へと範囲を変えている。もし、西周王室の人々に一つの方角に集約するのではなく東西南北それぞれの方向の墓を作る習俗があると仮定すると、洛陽の東周王城周辺に認められる様相は鎬京から遷ってきた西周王室の人々によってもたらされたものであると考えることができる。さらにまた西周時代の澧河両岸に見られる様相は西周王室に近い人々がもたらしたものと考えられることもできる。ひいて

表九 澧西地区西周墓

	大型墓	中型墓 a	中型墓 b	小型墓	計
北	3	4	4	79	90
東	1	1	9	83	94
南東	0	0	1	1	2
南	2	0	4	61	67
西	0	0	4	106	110
計	6	5	22	330	363

* 北東・南西・北西は各項目「0」であるため省略した。

は西周時代の洛邑は恐らく澧河兩岸にあったのだろうという仮説も成り立つことになる。

次にこの仮定を裏付けるための試みとして澧西地区の西周墓を見ていきたいと思う。

四 澧西地区と洛陽地区の西周墓

周の文王は豊京を都とし、続く武王は鎬京を都としたと言われている。この二つの都があったとされるのは陝西省長安県を流れる澧河兩岸で、西岸は豊京、東岸は鎬京にそれぞれ比定されている。それを示したのが図三である。実際に澧河西岸の長安県客家庄や張家坡一帯から西周時代の遺構・遺物が数多く発見されている。²³中には貴族であることを示すような遺物を随葬品に持つ墓、²⁴車馬坑も認められ、²⁵この周辺に貴族墓群が形成されていたことは疑いない。したがってこの澧西地区を西周王朝の都を構成していた人々の墓区とし、その前提に立って、この付近で出土した西周墓を以て洛陽墓との比較を試みたいと思う。

澧西地区の墓地についてまとめた形で報告されているものに『澧西発掘報告』がある。²⁶これは長安県の張家坡及び客省荘で発見された西周墓と、客省荘で出土した東周墓等について報告されているものである。その他にも澧西地

区²⁷⁾で度々行われた発掘の成果について報告されたものがある。上掲の洛陽墓の分類基準に基づき、それらを分析したのが表九である。これによると、北向き墓は全体の二五パーセント、東向き墓は二六パーセント、南向き墓は一八パーセント、西向き墓は三〇パーセントの割合で存在する。すなわち東西南北方向の墓がほぼ平均的に存在していたことになる。このことから澧西地区の西周墓は北向きというようない極に統一された墓の作り方はされなかったと考える。

以上のように、西周期において澧西地区の墓葬と洛陽地区の墓葬は明らかに異なる様相を有している。これは澧西地区と洛陽地区の住人が墓葬という点に於いて、異なる習俗を持っていたからであると理解できる。一方、洛陽地区の西周墓を見ると、前節までに述べたごとく、西周期では澧河兩岸、東周期では澧河の流れる東周王城周辺という特定地域に於いて澧西地区と似た様相がうかがえる。すなわち墓を作るのに際し、ある決められた方角に向けて作るのではなく、様々な方向に向けて各々の墓を作るという様相である。以上の点は、当該地域の人々と澧西地区の人々とが密接な関係をもっているという前節の仮説の立証となるものである。

おわりに

本稿では頭位と規模により墓葬を分類し、それによって導き出される洛陽地区の被葬者集団の性格を考察した。そして、当該地区に関しては西周時代から東周時代にかけて、規模に関係なく北向きの墓が主流を占めることが確認された。全体像としては右のごとく理解されるが、ここで注目すべきは例外的な事例として方位に特異性を示す特定の墓葬区の存在が認められたことである。すなわち、北向き以外の墓の出土地点を追っていくと、ある地域に集中することが分かった。西周時代の区域は澧河兩岸、東周時代の区域は東周王城周辺である。

西周時代、洛陽地区には西周王朝の東方経営の拠点、東都洛邑が造られ、都城も築城された。恐らく当時の都城の周辺に於いては都鎬京からの影響が他の地域よりも強かったであろうと考える。そうであるならば澧西地区と似たような様相を呈している墓群が存在する一帯が当時の都であったと言える。今回の分析結果に基づけば、それは澧河兩岸ということになる。

また更に澧河兩岸からは北窯西周墓のような貴族墓群及び車馬坑、鑄銅遺跡など都を構成する要素が集中して見つ

かっている。このことも西周時代の洛邑の位置を示す重要な鍵と言える。

西周王朝が衰退し、鎬京から追われ洛邑の地に遷都したとき、新たな都城東周王城を建設して以後、西周王室と近い人々すなわち澧西地区に住んでいた人々は東周王城の周辺に移り住み、その周辺に自身の文化・習俗を残したと推測する。その反映として形作られたのが、洛陽地域としては特有の北方頭位以外の洛陽墓群であり、今回の分析結果がその様相を示唆するものと考ええる。

このように見てくると、洛陽地区には死を北に結びつける觀念が根強く、西周王朝の東都が造られても、東周王朝の国都が造られても澧西地区の埋葬習俗を受け入れるのではなく、全体として旧来の習俗を守っていたと思われる。つまり、周王朝の造営した洛邑の都には、西から来た支配層は少なく、従来の習俗を受け継ぐ人々が多く居住していたと言える。すなわち当該地域では、澧西地区的要素はごく一部の地域に留まるものであった。更に当時の洛邑は鎬京からきた人々によってのみ営まれた都ではなく、その都に住む大多数の人々はむしろ澧西地区の人々とは異なった思想・習俗を有した人々、すなわち在来の人々であったと推察できよう。

西周墓群から見る洛邑（杉田）

今回は洛陽地区における西周時代から東周時代すなわち春秋戦国時代における居住民の様相を墓葬からアプローチを試みたが、本稿で用いた基準を用いて他の周の封国の墓葬を見ていくことも必要と考ええる。また洛陽地区の西周時代以前の墓葬を見ることも、この地域の大多数の墓に対する習俗をより明確に捉えることができるだろう。すなわち北向き墓はいつ頃から主流となったのか、こうした習俗はどこからきたものなのかという疑問についても何らかの示唆を得られると思われる。これらについては今後の課題としたい。

なお紙幅の都合で本稿では触れなかったが、文献と考古資料の相違を考える必要がある。すなわち、澧西地区には澧西地区特有の現象が見られた。これは先の『礼記』の周の北方頭位という記載とは合わない。頭位から習俗を捉えるという点では全く問題はないが、『礼記』の記事と考古資料との相違は機を改めて議論しなければならない問題である。この点についても今後考えていきたいと思う。

註

(1) 殷王朝・周王朝の時代、聚落を基盤としてその連合体という形で構成されているのが中国古代の都市国家であると

される。ここの都城は周代の天子・諸侯など有力者の城郭に囲まれた都市を指す。古代都市とは以下の五つの条件を満たすものと定義される。第一に人々が聚住していること、第二に統治者と非統治者が存在すること、第三に宗教関係の施設が存在すること、第四に大型の祭祀関係の芸術品が見られること、第五に交易を可能とする交通・商業の発展が認められること、これらが認められるのが都市であり、このような都市に城壁を代表とする防御施設を設けたものを都城と認識している。宮崎市定「中国城郭の起源異説」『歴史と地理』三三巻三号、一九三三年、松丸道雄「殷周国家の構造」『岩波講座世界歴史 四』岩波書店一九七〇年、磯波護「中国都城の思想」『日本の古代九都城の生態』中央公論社、一九八七年、愛宕元「中国の城郭都市」(中公新書 一九九一年)ほか参照。

(2) 何尊は一九六三年陝西省寶鷄寶村で出土した西周前期の青銅器である。この銘文に関する主な論文は以下の通りである。唐蘭「何尊銘文解釈」、馬承源「何尊銘文初釈」、張政烺「何尊銘文解釈補遺」(『文物』一九七六年第一期)、陳昌遠「有閔何尊的幾個問題」(『中原文物』一九八二年第

二期)、劉惠孫《東周與成周》(《人文雜誌》一九八四年第三期)、蔡運章《周初金文與武王定都》(《中原文物》一九八七年第三期)、李民《何尊銘文與洛邑的興建》(洛陽市第二工作隊編《河洛文明論集》中州古籍出版社 一九九三年)

(3) 伊藤道治「西周王朝と雒邑」(『中国古代国家の支配と構造』一九八七年)

(4) 『漢書』卷二十八「地理志」河南郡の条において、雒陽は周公が殷民を遷し、成周となしたところ、河南は周の武王が九鼎を遷したところに周公が都を造営し王城としたところであり、平王がここに居したことが注記されている。

(5) 成周と王城の問題に関しては、後藤均平「成周と王城」『和田博士古稀記念東洋史論叢』一九六一年に詳細が示されている。

(6)『世界考古学事典』(平凡社 一九七九年)の「都城址」の条に関野雄氏の定義が見える。それによると、都城遺跡は周囲に城壁を廻らせた都市の遺跡のことで、慣習として中国・朝鮮・日本に限定されて用いられる。ここでの都城遺跡もこの定義に準ずるものである。

(7) 洛陽市文物工作隊「一九七五—一九七九年洛陽北窯西周
 鑄銅遺址的發掘」(『考古』一九八三年第五期)の中で北窯
 鑄銅遺跡から出現した墓葬について言及している部分を見ると、一つの穴の中に不自然な形で埋められた人骨が多数あり、そうした様相の被害者と墓室を設け、ある程度整え

られて埋葬された被葬者と同じものとして扱っている。しかし、前者の投げ捨てられたような状況は「埋葬した」とは言い難い。従って今回の分析対象とはしない。

- (8) 楊寛『中国都城の起源と発展』(学生社 一九八七年)、葉万松・張劍・李德方『西周洛邑城址考』(『華夏考古』一九九一年第二期)

- (9) 松田稔氏「中国古代の魂招きにおける方位観の変遷」(『宗教研究』第五三巻第一号、一九七九年)

- (10) 松崎つね子氏は「楚・秦・漢墓の変遷より秦の統一をみる―頭向・葬式・墓葬構造等を通じて―」(唐代史研究会編『東アジア史における国家と地域―唐代史研究会報告第八集』刀水書房 一九九七年)の中でまず頭向について埋葬時における「枕」の方向と説明する。そして新石器時代から秦末・漢初の時期に頭向きを意識した習俗があり、それに地域性があることを見いだしている。この事を分析するに当たり頭向きを北向きは〇度、東向きは九〇度、南向きは一八〇度、西向きは二七〇度を中心にそれぞれ前後三〇度ずつをその範囲とし、検証を行っている。

- (11) 洛陽市文物工作隊『洛陽北窯西周墓』(文物出版社 一九九九年)中の第一章墓地概況に於いて言及されている。

- (12) 『洛陽北窯西周墓』では個々の墓のデータが西周早期墓、西周中期墓、西周晚期墓、未分期の西周墓というように時代区分ごとに分けて掲載されている。

- (13) 『洛陽中州路(西工段)』(科学出版社 一九五九年)

両周墓葬から見る洛邑(杉田)

- (14) 楊育彬ほか編『二〇世紀河南考古發現与研究』(中州古籍出版社 一九九七年)、洛陽市文物工作隊編『洛陽考古四〇年』(科学出版社 一九九六年)

- (15) この他、張劍・蔡運章『洛陽白馬寺西周晚期墓』(『文物』一九九八年第一〇期)が伝えるように、漢魏洛陽城付近でも西周墓は見つかっている。

- (16) 発掘の進め方による偏りは多少あるであろうが、現在までの成果から本文のように考える。

- (17) 『洛陽中州路』以外に洛陽市第二文物工作隊『洛陽五女冢西周墓発掘簡報』(『文物』一九九七年第九期)、『洛陽五女冢西周早期墓葬発掘簡報』(『文物』二〇〇〇年第一期)で報告される小型墓は全て北向きである。

- (18) 洛陽博物館『洛陽北窯村西周遺址一九七四年度発掘簡報』(『文物』一九八一年第七期)

- (19) 飯島武次『中国周文化考古学研究』(同成社 一九九八年)

- (20) 中州路第一・二・三期は春秋時代に、第四・五・七期は戦国時代に区分される。

- (21) 典拠の資料が示す墓葬の年代に応じて、春秋墓・戦国墓としている。ここでは、春秋時代のものとも戦国時代のものとも判断は付かないが東周時代のものであることが確かなのは「東周墓」、西周であるか東周であるか定かではないが周代であることが確かなものは「周墓」とする。

- (22) 前掲。註(19) 飯島前掲書参照。

- (23) 中国科学院考古研究所『澧西発掘報告』(科学出版社一九六二年)及び註(19) 飯島前掲書に見える。

- (24) 例として中国科学院考古研究所澧西発掘隊「長安張家坡西周井叔墓発掘簡報」(『考古』一九八六年第一期)、同「陝西長安張家坡M一七〇号井叔墓発掘簡報」(『考古』一九九〇年第六期)で報告される大型墓が挙げられる。

- (25) 前掲の『澧西発掘報告』中に報告されている。

- (26) 前掲。註(23)参照。

- (27) 『澧西発掘報告』の他、趙永福「一九六一—六二年澧西発掘簡報」(『考古』一九八四年第九期)、中国社会科学院考古研究所澧西工作隊「一九六七年長安張家坡西周墓葬的発掘」(『考古学報』一九八〇年第四期)、同「一九七六一—一九七八年長安澧西発掘簡報」(『考古』一九八一年第一期)、同「長安張家坡西周井叔墓発掘簡報」(『考古』一九八六年第一期)、同「一九七九—一九八一年長安澧西、澧東発掘簡報」(『考古』一九八六年第三期)、同「一九八四年澧西大原村西周墓地発掘簡報」(『考古』一九八六年第一期)、中国社会科学院考古研究所澧鎬隊「一九八四—一九八五年澧西西周遺址、墓葬発掘報告」(『考古』一九八七年第一期)、同「一九八四年長安普渡村西周墓葬発掘簡報」(『考古』一九八八年第九期)、同「陝西長安張家坡M一七〇号井叔墓発掘簡報」(『考古』一九九〇年第六期)、同「一九九二年澧西発掘簡報」(『考古』一九九四年第一期)、中国社会科学院考古研究所澧西隊「一九八七、一九

九一年陝西長安張家坡的発掘」(『考古』一九九四年第一期)がある。これらの報告に基づき、表九を作成した。